

授業づくり	重点	ICT 機器やソフトの効果的な活用法を探究しながら、生徒一人一人の意欲を喚起し、分かりやすいと感じ取れる、工夫された授業づくりを目指す。	中間評価	生徒意識調査では「先生の授業は分かりやすいと思う」に 92%の生徒が「あてはまる」と答えた。	最終評価	
環境づくり		授業規律の徹底、教材の内容や提示方法の工夫、ペア学習等学習形態の工夫をし、主体的に学びに向かいやすい環境づくりの充実を図る。		落ち着いた雰囲気の中で集中して授業に取り組んでいる。話し合い活動等にも慣れてきている。		

教科の取組み内容

教科	学習状況（４月）	課 題（４月）	改善に向けた取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（２月）
国語	調どの学年でも全国平均を上回り、確かな学力を身に付けつつある。 調話す、聞く分野のみ全国平均を下回り、それ以外は全て全国平均を上回っている。特に書く力が伸びた。 学漢字を書くことが苦手な生徒が多数いる。	・書く力を身に付けさせることを、継続して行うとともに、話し合いや、発表なども積極的に行う必要がある。 ・漢字や語彙など基礎的な力を身に付けさせる必要がある。	・話し合い活動のルールを明確にし、単元に応じて、授業で話し合い活動を取り入れていく。 ・単元ごとに各個人の発表の機会を増やしていく。 ・漢字テストを毎学期定期的に実施し、定着させていく。	・７月に行われた新宿区学力定着度調査において、第３学年は全ての項目で全国平均を上回った。特に読解分野で大きく上回った。これは日々、話し合い活動などを通じて、主体的に読解している成果だと思うので、続けていく。 ・第２学年では、知識事項のみ全国平均を下回ったので、知識事項の定着を図っていく。 ・漢字テストでは、全学年正答が８割以上の生徒が増えた。 ・第１学年では、漢字テストやワークシートの内容から各生徒の学習状況を把握する。	
社会	調基礎・基本、活用が区の平均より低く、特に歴史や世界的視野から見た日本の正答率が低い。 学授業にはよく取り組むが、提出物への取り組み状況には課題が見られる。	・授業などで学んだ知識の定着を図る。 ・知識を活用して、思考・判断・表現する力を付けさせる。 ・資料から物事を読み取る力を付けさせる。 ・歴史に興味・関心をもって取り組ませる。	・授業後の小テストの実施で知識の定着を図る。 ・ワークシートに、既習知識を生かせる課題を設定し、知識を活用して思考・判断・表現する回数を増やす。 ・単元ごとに、資料活用の学習量を増やし、読み取る力を付けさせる。 ・歴史的事実を通して、その因果関係を考える課題を設定することで、興味・関心をもたせるようにする。	・東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を見ると、知識の定着がまだ十分ではないため、小テストを行うなど復習を増やしていく。 ・第３学年は思考・判断・表現については平均値を上回っており成果は出ている。第２学年は平均値を下回っているため、課題解決的な学習を増やしていく。 ・第３学年、第２学年とも資料活用能力が平均を下回っており、資料を読み取る場面を増やしていく。 ・興味、関心については、まだ十分ではないため、意欲的に取り組めるような課題設定を行う。 ・第１学年においては、ワークシートやノートの内容から各生徒の学習状況を把握していく。	
数学	調第２学年では、どの領域についても全国平均を大幅に上回り、確実に学力を付けた。 調第１学年では、どの領域も標準スコアがほぼ平均であった。 学各学年とも、提出物への取り組み状況は、課題が見られる。	・基礎的な学力が身に付いた生徒には、応用問題に取り組ませるなど、さらに意欲をもたせるようにする。 ・授業に集中できない、提出物を期限内に出せないなど生徒には、授業内での小テストやワークシートに取り組ませる必要がある。	・学力調査の結果を活用して、自信をもたせながら、個に応じた指導を充実させる。 ・授業態度や小テストの受け方などの課題について、習熟度別少人数授業の利点を活かして、教員間の情報交換を密にし、個々の生徒に応じた教材の作成を行うなど、学習意欲を向上させる。	・第３学年の新宿区学力定着度調査で、全体的に目標値を上回ることができた。習熟度別授業で、生徒の実態に合わせた演習を行った取組が効果的であったと考えられるので継続していく。一方で、図形や資料の活用の領域では、平均値を下回っているため、週に１枚ずつ、基本演習課題に取り組ませ、力を伸ばしていく。 ・第２学年は、東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査で、技能の観点は平均を上回ることができた。毎時間の課題プリントが効果的であったと考えられるので、継続していく。一方、思考・判断や知識・理解の観点が平均を下回っているため、教科部会での教材研究をより深くして、ＩＣＴ機器の活用方法を見直し思考を深めさせる工夫をしていく。 ・第１学年においては、定期的な小テストの実施、家庭学習課題の提出状況から、各生徒の学習状況を把握していく。	
理科	調区の学力調査では、第３学年は基礎の分野、第２学年は基礎・活用の分野に課題が見られた。新しく学習した項目の理解は十分であるが、以前に学習した項目の理解は不十分である。 学実験を多く取り入れているため、技能や思考・判断・表現の観点では向上が見られている。全体的に授業では理解しているものの、知識の定着が不十分である。第２学年は実験に良く取り組み、授業にも前向きな生徒が多い。	・第３学年は１，２年の学習内容を忘れていくことが多いため、小テストやワークシートを使って知識の定着を図る必要がある。 ・第２学年は実験結果を知識として定着させたり、応用させたりすることができるようにワークシート等を活用して取り組ませる。	・第３学年では、副教材等を利用し、第１学年、第２学年の復習を行う。第３学年の内容についても、ワークシート等を使い、知識を定着させる。 ・第１，２学年は、実験の充実を継続しつつ、実験のまとめを丁寧に行い、実験結果を、知識や法則性につなげられるよう指導する。ワークシート等を使い、知識を定着させる。 ・実験を行いにくい単元(天体等)に関しては、ＩＣＴを効果的に利用して補っていく。	・第３学年は、新宿区学力定着度調査において、電気の分野に課題が見られる。これは、知識の不足と言うよりも、グラフ、計算等、データ処理の力が不足していると考えられる。今後問題演習を多く行うことにより、改善していく。 ・第２学年は、東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査において、知識・理解が都平均を上回っているものの、思考・判断・表現に課題が見られる。ワークシートの活用や練習問題を多く行っていくことにより、改善していく。 ・第１学年においては、実験の結果や授業のまとめをワークシートに記入し、考察できているか等の内容で各生徒の学習状況を把握していく。	

英語	調	第2学年では、全体として目標値を上回ることができているが、基礎の活用では数値が低くなっている。また領域別では「読むこと、書くこと」について、目標値を下回っている。観点別では、「外国語表現の能力」について、目標値を下回っている。第3学年も、全体として目標値を上回ることができているが、観点別では「外国語表現の能力」が目標値を下回っている。	学	基礎・基本の定着が不十分なため、自分の表現したいことを表現できないうで、記述問題に苦手意識をもって生徒がいる。
		- 書くことに苦手意識のある生徒のために、表現するために必要な基礎的・基本的な単語や文書の定着を図る。 - 対話の内容を聞き取って資料をもとに答えること、対話の流れに合った英文を再生して書くこと、長文の内容を理解して感想や賛否及びその理由を書くことに取り組ませる。 - 基礎・基本の定着が不十分な生徒には、継続して、復習課題に取り組ませる必要がある。	- 書くことに対する苦手意識を減らしていくために、毎時間小テストで簡単な短文を書かせる活動を行い、記述による表現力を伸ばす。 - 読む力を伸ばすために、さまざまな英語表現を与え、教科書以外にも様々な英文を読みとる機会を十分に与えていく。読んだあとの活動として、感想や賛否およびその理由を書く課題を与える。 - 基礎・基本の定着を図るために、副教材を毎回の授業で課題として出し、家庭学習に取り組ませる。	- 東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査及び新宿区学力定着度調査の結果を見ると、第3学年では、各領域で平均値を上回っている。特に「書くこと」に関しては、課題であったが、数値が平均よりも上回ってきており、少しずつ成果が出始めている。第2学年では、全領域で数値が下回っており、特に「書くこと」の正答率が低い。「書くこと」は引き続き課題であるので、感想や賛否等を書く活動を続けていく。 - 基礎・基本の定着が十分でない生徒のために、単語などの基礎課題に取り組ませている。また、文法などを定着させる課題も定期的に取り組ませている。 - 第1学年においては、定期的な小テストの実施、家庭学習課題の提出状況から、各生徒の学習状況を把握していく。